

令和 4 年 6 月 24 日現在

機関番号：10104

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K01310

研究課題名(和文) アンチダンピング迂回防止の国際的規律のための多面的・多段階的規範形成の実証的研究

研究課題名(英文) Redesigning the international regulation of AD anti-circumvention measures: with special focus on the country-of-origin/rules-of-origin determinations

研究代表者

小林 友彦 (Kobayashi, Tomohiko)

小樽商科大学・商学部・教授

研究者番号：20378508

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：世界貿易機関(WTO)の枠内における様々な分野の規範、とりわけアンチダンピング(anti-dumping: AD)、補助金相殺関税(countervailing duties: CVD)、原産地規則(rules of origin: ROO)に対する国際的規律との間の規範的懸隔について、の枠内の規範の運用事例について分析することを通じて、複数の規範間の相互関係や重複関係について検討し、実証・理論分析の欠缺を埋めるといった観点から成果を公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

規範の「迂回」とは、通常とは異なる方法をとることでもって当該規範の適用を免れ、もって当該規範の目的と機能を損なう行為を指す。これを無制約に許せば、規範の実効性が損なわれることになる。他方で、人為的な操作を加えたり通常とは異なる方法をとったりする点を除けば少なくとも形式的には適法な行為である以上、それに対する過剰規制を避ける必要もある。このような意味において、「迂回」をどのように規律するかは国際法と国内法に共通する難問であることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：We focused on several of the WTO rules such as anti-dumping (AD), subsidies and countervailing duties (CVD) and the rules of origin (ROOs) to investigate the normative interactions between them within the framework of the World Trade Organization (WTO) Agreement system. We took on several distinctive disputes to analyze how these rules relate to one another to cast light on impending legal issues.

研究分野：国際法、国際経済法

キーワード：迂回防止 アンチダンピング 補助金相殺関税 原産地規則 国産品優遇条項 北極海航路 平和橋当局

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

規範の「迂回」とは、通常とは異なる方法をとることでもって当該規範の適用を免れ、もって当該規範の目的と機能を損なう行為を指す。この点で、当該規範の「違反」とは異なる。また、一見すると「違反」にならないように見えても実質において規範に反する行為（「隠れた違反」）とも異なる。

「迂回」行為を無制約に許せば、規範の実効性が損なわれることになる。他方で、人為的な操作を加えたり通常とは異なる方法をとったりする点を除けば少なくとも形式的には適法な行為である以上、それに対する過剰規制を避ける必要もある。このような意味において、「迂回」をどのように規律するかは国際法と国内法に共通する難問である。

本研究課題においては、アンチダンピング（AD）に対する国際的規律と原産地規則（ROO）に対する国際的規律との間の規範的懸隔について、実証・理論分析の欠缺を埋めるという観点から基礎的分析を行い、その成果を公表した。AD 措置は、個々の不公正貿易に対抗する特殊関税として個別性を本質とする。他方で、ROO は、日常的に通関業務で適用される予測可能な規則として一般性を本質とする。しかし、近年、AD「迂回防止」措置の取扱いをめぐって、AD と ROO の緊張関係が顕在化している。特に問題となるのは、製品の原産国を人為的に操作することで AD 措置の適用を免れようとする「迂回」行為の取扱いである。AD 措置を発動しても、生産ラインや部品を変更する等の軽微な操作でもって容易にその適用を免れることができることとなれば、その効果は大きく損なわれる。そのため、米国や EU は、迂回行為を抑止するために、当初設定した範囲外の行為にまで既存 AD 措置を拡大適用するという「迂回防止」措置を正当だと主張する。

特に米国は、近年、迂回調査を行うための特別の ROO を作って適用し始めた。その理由は、一般的な ROO を用いれば、「迂回防止」措置をさらに迂回するような生産ラインや貿易経路が利用される恐れがあるからだという。このような ROO を採用するか否かは、各国の AD と ROO の制度設計に依存する。しかし、仮に各国国内法上は合法でも、それが区々であれば、国際貿易を阻害する。のみならず、AD と ROO それぞれの分野における国際規律の実効性を損なう恐れもある。では WTO で対応できるかと言えば、その実効性には疑問符が付く。このような多元的・多段階的な制度間調整を行うための選択肢を示すことが、本研究の問題意識である。

2. 研究の目的

国家は、国内法令を操作することによって国際義務を「迂回」しようとする主体である一方で、私人による国内法令・行政措置の「迂回」を抑止しようとする主体でもある。そこで、国際レベルと国内レベルにおける国家の法的整合性という観点から、「迂回」の規律についての立体的なバランスの取り方を示そうとした。具体的には、国家が WTO 協定を実施するにあたって、「迂回防止」措置を取る行為と、国際義務を「迂回」する行為との間の規範的緊張関係について分析する。この作業によって、とりわけアンチダンピング措置及びそれと関連する分野における通商法における「迂回」概念の分析枠組みと法的対応策について再構成しようとした。

3. 研究の方法

文献研究および理論研究を行った。

4. 研究成果

規範の「迂回」とは、通常とは異なる方法をとることでもって当該規範の適用を免れ、もって当該規範の目的と機能を損なう行為を指す。これを無制約に許せば、規範の実効性が損なわれることになる。他方で、人為的な操作を加えたり通常とは異なる方法をとったりする点を除けば少なくとも形式的には適法な行為である以上、それに対する過剰規制を避ける必要もある。このような意味において、「迂回」をどのように規律するかは国際法と国内法に共通する難問であることを明らかにした。

中でも、2019 年度は、基盤的分析として、米国のアンチダンピング制度の運用における原産地規則の位置づけについて分析した。また、米国の WTO 政策と FTA 政策との間の相互関係や、米加間貿易をめぐる問題について整理することにも手を広げた。しかし、2020 年度以降は、分析の射程がごく限定されたものとなった。2020 年度は、北極海航路をめぐって中国等による船舶建造補助金の利用の仕方が輸出補助金規律との関係でどのような問題を提起しているかの分析

に注力した。2021年度は、再び米国の通商法運用をめぐる問題に立ち返って分析した。

研究成果の発表方法としては、国際・国内学会での研究発表（詳細は後掲）とその際の質疑応答によって国内外に問題提起を行い、論文（詳細は後掲）によって学術的成果を公表した。ただし、2020年初頭からのコロナ禍の影響を受け、2020年度以降の研究は大きな困難に直面した。とりわけ、学会発表等の形での成果公表が低調となったのは否めない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 小林友彦	4. 巻 71
2. 論文標題 貿易救済措置における原産国認定方法に関する2019年以降の米国判例の動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 商学討究	6. 最初と最後の頁 91-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Tomohiko Kobayashi	4. 巻 55
2. 論文標題 Sustainable Resource Development in the Arctic: Using Export Trade Agreements to Restrict Environmentally Harmful Subsidies	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Polar Record	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S0032247419000524	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小林友彦	4. 巻 140
2. 論文標題 原産地規則とアンチダンピング迂回防止措置に関する規律の整合性確保のための法的対応 - 米国の最近の行政運用・司法判断に注目して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フィナンシャル・レビュー	6. 最初と最後の頁 230-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小林友彦	4. 巻 30
2. 論文標題 近年のアメリカの自由貿易協定の特徴	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 論究ジュリスト	6. 最初と最後の頁 22-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Tomohiko Kobayashi
2. 発表標題 Role of International Trade and Investment Rules to Promote Operation of Unmanned Surface Vessels in the Arctic Ocean
3. 学会等名 第13回極域法シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomohiko Kobayashi
2. 発表標題 Sustainable Resource Development in the Arctic: Using Export Trade Agreements to Restrict Environmentally Harmful Subsidies
3. 学会等名 International Workshop on “Emerging Technologies Towards Sustainable Development”（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林友彦
2. 発表標題 ダイナミックに変動するアジア太平洋における経済連携の行方
3. 学会等名 OneAsia財団連続講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomohiko Kobayashi
2. 発表標題 Can I Do It My Way? World Trade Organization Issues Involving the Maritime Autonomous Surface Ships in the Arctic Ocean
3. 学会等名 1st Vladivostok Maritime Law Forum（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林友彦
2. 発表標題 緊急時の政府調達において国産品を優遇する措置に対する、WTO協定による対応可能性
3. 学会等名 京都大学国際法研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Tomohiko Kobayashi & Yuka Fukunaga ("Like a Rolling Stone: Exploring Viable Options for the WTO Dispute Settlement Mechanism to Evolve Forward in the Post-WTO Era"を分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 291
3. 書名 A Post-WTO International Legal Order: Utopian, Dystopian and Other Scenarios	

1. 著者名 小林友彦(「米国の政府調達に関する国産品優遇条項における原産地規則の運用のWTO政府調達協定との整合性」を分担執筆)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 信山社出版	5. 総ページ数 632
3. 書名 国際法秩序とグローバル経済	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Researchmap https://researchmap.jp/tomohiko-kobayashi
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------